

第二十七回 交野市・交野市星友クラブ俳句大会  
市民から投句のあつた作品

ていくうひこうわかばかせ

みずはら ひさこ

一 カワセミの低空飛行若葉風

水原 久子

ころも にそうはな

みずはら ひさこ

二 むらさきの衣の尼僧花しようぶ

水原 久子

らんまん はな きみ ゆめ あ

やだ ちかこ

三 爛漫に花咲き君と夢に会ふ

矢田 千加子

あさがお かぞ よせい ひとひ

やだ ちかこ

四 朝顔を数え余生の一日かな

矢田 千加子

ひばく きななじゅうくねん けむしは

おかだ あけみ

五 被爆の樹七十九年毛虫這ふ

岡田 明美

ひまわり こどもしよくどう

おかだ あけみ

六 向日葵や子供食堂わいわいと

岡田 明美

てはなび ひばな

なつ お

にしむら ひろし

七 手花火の火花ちろちろ夏の終わ

西村 裕

八 秋の日は早や暮れ初めて虫の声

あき ひ は く そ むし こえ

にしむら ひろし

西村 裕

九 ポケットの小銭重たき夏祭

はやかわ しゅうぞう

早川 周三

十 本棚が重さで撓ふ走り梅雨

はやかわ しゅうぞう

早川 周三

十一 春迎へ孫らが成長夢いくつ

はるむか こ せいちようゆめ

ひろえ きよこ

廣江 清子

十二 庭の木々空蝉見つけ何処へやら

にわ きぎょうつせみみ どこ

ひろえ きよこ

廣江 清子

十三 水はりし早苗まつ田に月うつる

みず さなえ た つき

ませ みつお

間瀬 三生

十四 梅雨あけて猛暑にまけずセミの声

つゆ もうしよ こうえ

ませ みつお

間瀬 三生

十五 新緑に内壕染めて大手門

せんだ るりこ

千田 るり子

十六 七夕や子の夢いくつ幼し字

たなばた こ ゆめ いとけ じ

せんだ るりこ

千田 るり子

十七 今一度ははに見せたきこの桜

いまいちど み さくら

ふじわら はるみ

藤原 晴美

ともな

わす

ざむ

ふじわら はるみ

十八

友の名をふと忘れたりそぞろ寒

藤原 晴美

ねんりん

ねもと

かつもと ゆきこ

十九

年輪のあらわに根元ひこばゆる

勝本 幸子

とも

なす

ゆうげ しゅやく

かつもと

ゆきこ

二十

友よりの茄子が夕餉の主役なり

勝本 幸子

ばんりよくせ

よせい お ごころ

みやけ

きさぶろう

二十一

万緑や攻めぞ余生の老い心

三宅 稀三郎

あしばかいたいつりしのぶ

みやけ

きさぶろう

二十二

マンションの足場解体釣忍

三宅 稀三郎

けいろうさいに

うで ま

やまぎわ

さよこ

二十三

敬老祭二の腕も舞うフラダンス

山際 佐代子

めさ

にし まどぶ

二十四

目を覚ます西の窓辺のスーパームーン

やまぎわ さよこ

山際 佐代子

えんてん

きいろい

こえ

みずしぶき

おか

みつこ

二十五

炎天へ黄色い声と水飛沫

岡 美津子

うつせみ

むね

かざ

がお

おか

みつこ

二十六

空蟬や胸に飾りておどけ顔

岡 美津子

あたた さか とじょう

おか まさお

二十七 暖かや坂の途上のベンチかな

岡 勝夫

ひるさ うちわ かぜ

おか まさお

二十八 昼下がりに団扇の風でうとうと

岡 勝夫

はち じ かや わ たなばたさい

かとう まさみ

二十九 八の字に茅の輪くぐり七夕祭

加藤 雅美

いえやす あしあと なつ じん

かとう まさみ

三十 家康の足跡たどり夏の陣

加藤 雅美

はるはやて う おにがわら

やまだ ひろみ

三十一 春疾風しかと受けたる鬼瓦

山田 洋美

ちちあ いまごろししょうぶ ねわ

やまだ ひろみ

三十二 父在らば今頃菖蒲の根分けせむ

山田 洋美

ね ばな くさ ひと

かばしま こいと

三十三 振じ花をよけて草むしる女のあり

樺島 子糸

あさ な さと やま

かばしま こいと

三十四 朝まだきかなかな鳴くや里の山

樺島 子糸

た ふつこうねが あおたかせ

まつもと けいこ

三十五 田んぼアト復興願ふ青田風

松本 恵子

あさいち あま

かせひか

まつもと けいこ

三十六 朝市の海女のピアスや風光る

松本 恵子

わかたけ ひ たく そぶり こ

いしかわ としよ

三十七 若竹や日に逞しく素振りの子

石川 淑代

さざんか ち し みち かせ は

いしかわ としよ

三十八 山茶花の散り敷く道や風と掃く

石川 淑代

よそ

むらかみ よしひろ

三十九 百合の花凜と佇む他所の庭

村上 吉洋

むらかみ よしひろ

四十 帰り道香り漂う夏カレー

村上 吉洋

四十一 花の色も人の心も七変化

中村 幸子

なかむら さちこ

四十二 むら雨に揺るぎなく立つ花菖蒲

中村 幸子

なかむら さちこ

とおやま あお はちじゅうはちや

まつぎき さちこ

四十三 遠山の蒼き八十八夜かな

松崎 幸子

こしら こそえ こうえんこごめばな

まつぎき さちこ

四十四 子等の声ひびく公園小米花

松崎 幸子

四十五 打水のさつと風吹く心地よさ

ばんどう えいこ

坂東 英子

四十六 しばらくは出句休みや大花火

ばんどう えいこ

坂東 英子

四十七 打水や一息ほつとすがすがし

きのした のりこ

木下 典子

四十八 熱帯夜睡眠不足休息す

きのした のりこ

木下 典子

四十九 休みながら登る階段夏の駅

うらの あつこ

浦野 篤子

五十 盆休み終へて老人再起動

うらの あつこ

浦野 篤子

五十一 枝先へのぼりつめたる花芙蓉

きしい とみこ

岸井 富子

五十二 新涼にほほゆるませる停留所

きしい とみこ

岸井 富子

五十三 蝉落つる虎視眈々に群れる蟻

かたやま

片山 すすむ

五十四 扇風機首折れダウン役目終ゆ

かたやま

片山 すすむ

五十五 この暑さ子らの声なき夏休み

うえむら まさこ

上村 征子

五十六 秋立つや思い出多き一休寺

うえむら まさこ

上村 征子

五十七 灼熱を閉ざすカーテン丈足らず

もりた ちかこ

森田 力子

五十八 球児らは汗と涙で土を搔く

か

もりた ちかこ

森田 力子

五十九 夏暑し感動の日々パリ五輪

むらお きよこ

村尾 紀代子

六十 秋立つやひとりの膳のありあわせ

むらお きよこ

村尾 紀代子

六十一 こもり居て人の恋しき蛍の夜

こい ほたる よ

ちかだ ひろこ

近田 弘子

ひきな つきかげ のづら

ちかだ ひろこ

六十二 蛙鳴ひて月影しるき野面かな

近田 弘子